

「J P法のSTC（ストキャスティクス）」

J P法ソフトで使えるSTC（ストキャスティクス）は2種類あります。

※以前は、STCの呼び名はそのままアルファベット読みで、エス・ティー・シーと言っていました。

2000年ころからでしょうか。ネット証券が出始め、そのソフト（今で言うところのアプリ）からSTCが表示出来るようになりその頃から、呼び名がストキャスティクスとなったように思います。

MACDもそうです。1990年代前半までは、こちらもアルファベット読みでエム・エー・シー・ディーでした。

当時はJ P法ソフトにしかMACDは入っていませんでした。他の株ソフトでは採用されていませんでした。

今は、マックディーと呼ばれています。

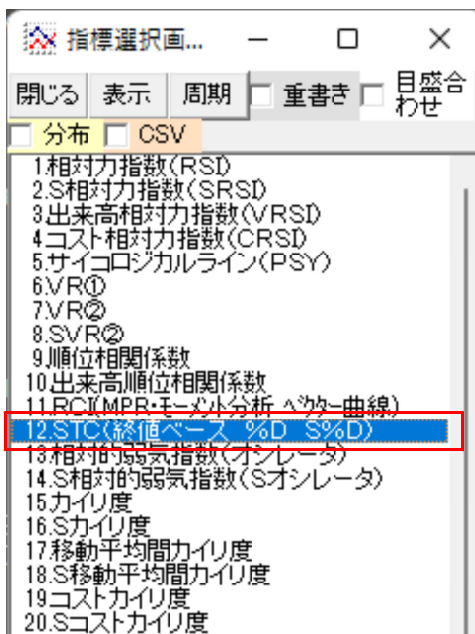
こちらもネット証券で採用されだしてから呼び名が変化していったと思われます。

こうした事は他にもあり、例えばボリンジャーバンドやDMIもそうです。その当時、J P法のソフトは米国からやってきた最先端のテクニカル指標を表示出来ていました。

話を元に戻します。

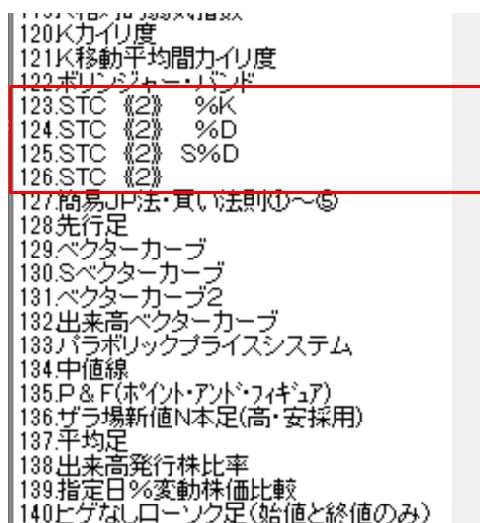
指標12番に登録されている計算式が終値のみを採用したSTCが1つ目の表示です。

分析チャート 「指標」から



12番に終値採用のSTCが登録されています。

そして指標 1 2 3 ～ 1 2 6 に登録されている計算式が高値、安値、終値を採用したもの。
今では一般的にこちらが使われています。



120	Kカイリ度
121	K移動平均間カイリ度
122	ボリンジャー・バンド
123	STC 《2》 %K
124	STC 《2》 %D
125	STC 《2》 S%D
126	STC 《2》
127	簡易JP法・買い法則①～⑤
128	先行足
129	ベクターカーブ
130	Sベクターカーブ
131	ベクターカーブ2
132	出来高ベクターカーブ
133	パラボリックプライスシステム
134	中値線
135	P & F (ポイント・アット・フィギュア)
136	ザラ場新値N本足(高・安採用)
137	平均足
138	出来高発行株比率
139	指定日%変動株価比較
140	ヒゲなしローソク足(始値と終値のみ)

以前、1 9 9 0 年代頃までは指標 1 2 番の終値採用の S T C が使われていました。

J P 法は古くからある株ソフトなので、終値採用の S T C が検索に採用されています。

S T C は、株価位置を移動平均し、さらに移動平均した指標の計 3 本を使う指標です。

株価位置の段階の事を % K といっています。

そしてこの % K を移動平均したものを % D

% D を移動平均したものを S % D (スロー % D) といいます。

指標 1 2 番の S T C は、% D と S % D が表示出来ます。

こちらは % K がありません。以前は % K を使う事はありませんでした。

裏に隠れているといったところです。

% D は % K の 3 日移動平均です。これは固定です。

指標 1 2 番の周期入力画面

周期入力画面

OK

入力画面

%D 周期入力	15
S%D 周期入力	5

分かりにくいですが、ここでいう %D の周期入力は、指標 1 2 3 以降の %K の周期の事です。

指標 1 2 3 番以降の周期を対応させるとようになります。

周期入力画面

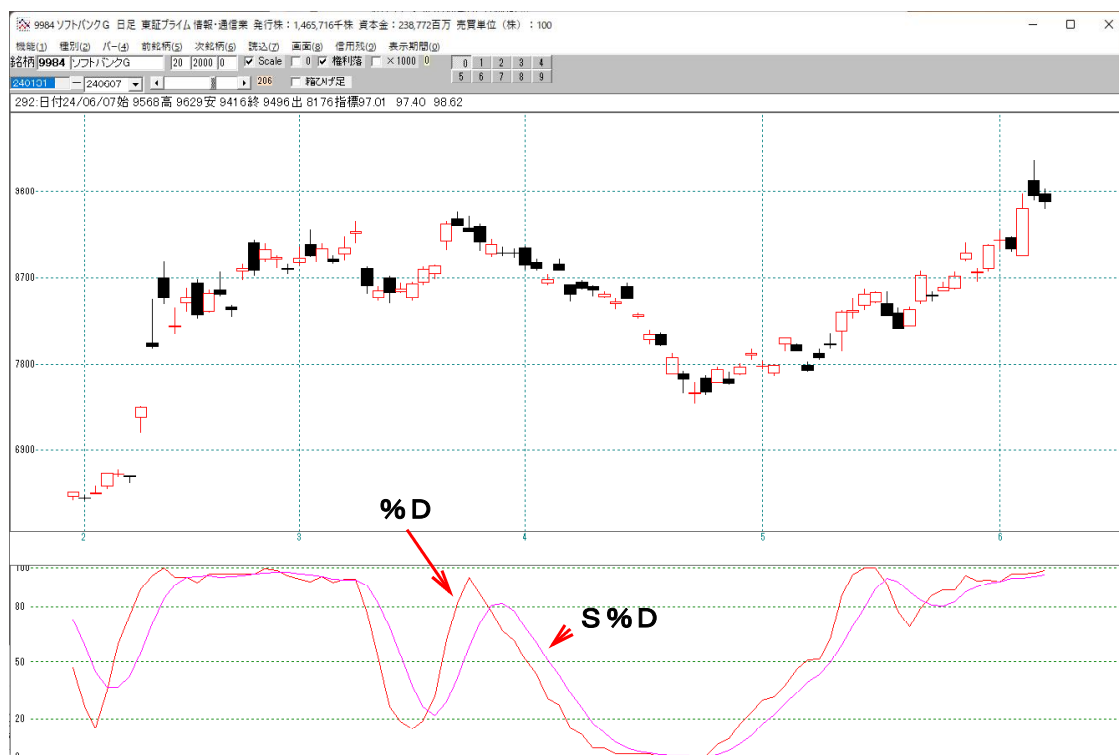
OK

入力画面

%K 周期入力	15
%D 周期入力	3
S%D 周期入力	5

%D の周期は「3」で固定。

指標 1 2 番の表示



指標 1 2 6 番の表示 %K が同時に表示されます。



一般的な分析方法は、%DとS%Dを比較します。

%Dが20以下で、S%Dをゴールデンクロスした（下から上抜いた）時が買い

%Dが80以上で、S%Dをデッドクロスした（上から下抜いた）時が売り

%Kは使わない事が多いです。

%Dは%Kを移動平均したものですから、遅効性があります。その分、線はなめらかです。

S%Dは%Dをさらに移動平均したものですから、ますます遅効性があります。移動平均の移動平均化ですから。



%Kだけをみれば、株価位置なので、今日が一番安かったら「0」。一番高かったら「100」です。

これが基準になりますので、STCの値は、「0」から「100」の間をとります。

※以前は%Dの事を指標名であるSTCとっていました。

%Dは移動平均している分、株価の一番安いところが「0」になるわけではありません。多少ずれます。

簡単にいうと、株価と25日移動平均線、そして75日移動平均線のようなイメージです。

J P法ソフトでは、STCのゴールデンクロス(%DとS%Dの)とデッドクロス(%DとS%Dの)を絞り込み検索でスクリーニングする事が出来ます。ただし、終値採用のSTCです。※指標12番のSTC

絞り込み検索 30番 ストキャスティクス (GC・DC)

一番的な買い条件 20以下でゴールデンクロス

30.終値採用ストキャスティクス (STC) GC・DC

検索条件 検索種別・日付

実行 中止 登録 閉じる

%D周期 15 %D 以上 0
S%D周期 5 %D 以下 20

※STCの計算式は終値を採用

採用条件(%DがS%Dを)

☒ GC(ゴールデンクロス) ☐ DC(デッドクロス) ☐ 無視

一番的な売り条件 80以上でデッドクロス

30.終値採用ストキャスティクス (STC) GC・DC

検索条件 検索種別・日付

実行 中止 登録 閉じる

%D周期 15 %D 以上 80
S%D周期 5 %D 以下 100

※STCの計算式は終値を採用

採用条件(%DがS%Dを)

☐ GC(ゴールデンクロス) ☒ DC(デッドクロス) ☐ 無視

J P 2 0 0 0 ソフトであれば、%Kと%Dの位置関係をスクリーニングする事が出来ます。

J P 2 0 0 0 ソフトの絞り込み検索 3 0 番

こちらは、指標 1 2 番ではなく、指標 1 2 3 番以降の S T C の検索です。

30. ストキャスティクス (STC) GC・DC

検索条件 検索種別・日付

実行 中止 登録 挿入 閉じる

%K 周期 15 %K 以上 0 ~以下 20
%D 周期 3 %D 以上 0 ~以下 20
S %D 周期 5

%D が S %D を
☒ GC(ゴールデンクロス) ☐ DC(デットクロス) ☐ 無視

%K が %D を
☐ 上抜けた ☐ 下抜けた ☐ 上にある ☐ 下にある ☒ 無視

J P 法ソフトの S T C の検索は、指標 1 2 番 終値採用の S T C を検索する。

J P 2 0 0 0 ソフトの S T C の検索は、指標 1 2 3 番 今、一般的に使われている S T C を検索する。

何が大きく違うのかというと、S T C の元となる株価位置 (%K の事) 計算式です。

株価位置を計算する時に、終値のみを使って算出するか、
ザラ場 (高値と安値) を使って算出するかの違いです。

指標として、多少振幅があるのは、ザラ場採用の S T C でしょう。

この考えは、新値足にも当てはまります。終値だけで計算するか、ザラ場 (高値・安値) を含めるか。といった具合です。

STCの検索ですが、JP法ソフトではもう1つあります。

それはWORK分析で出来ます。

しかし、こちらの検索は、%DとS%Dのゴールデンクロスなどをスクリーニングする事は出来ません。

%D（株価位置の移動平均）のみの検索となります。

指標12番の終値採用の%Dです。

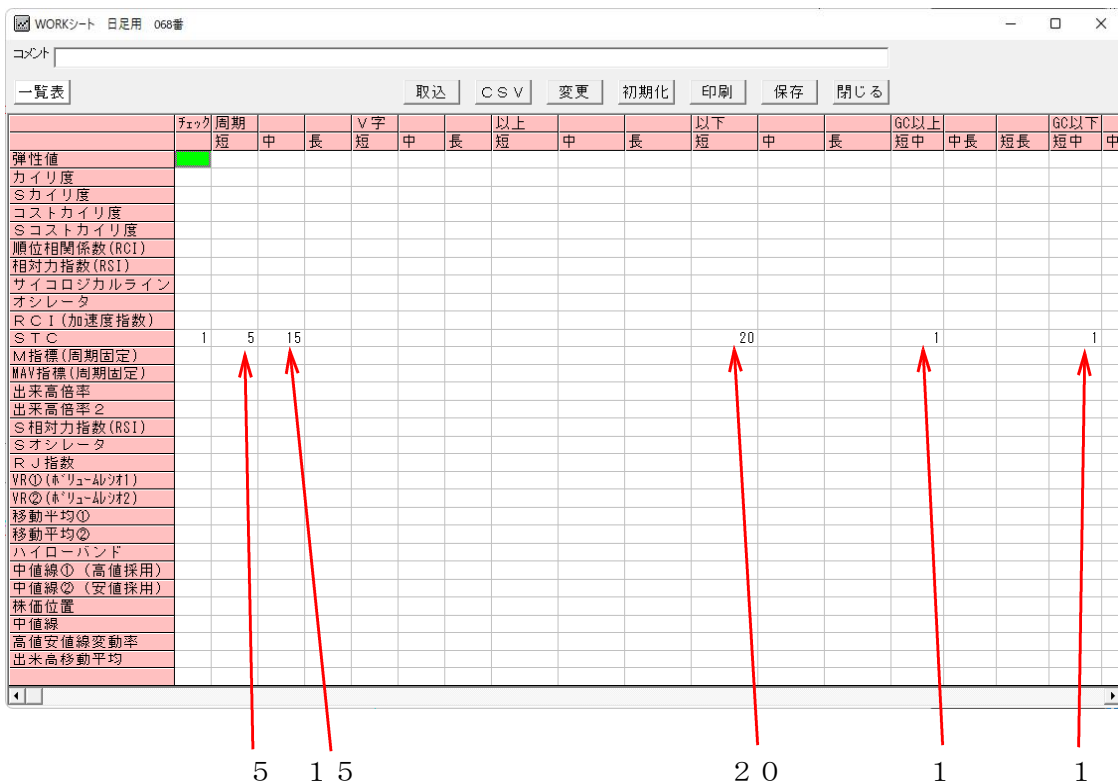
WORK分析では、ゴールデンクロスなどをスクリーニング出来ませんが、ここで出来る事は、異なる周期の%Dのゴールデンクロスの事です。

具体的にいうと、「周期5の%Dと周期15の%Dのゴールデンクロスが出来る」となります。

こちらは、一般的には広まっていない手法です。

個人的には皆が使っているゴールデンクロス（%DとS%D）より、何か発見があるのではないかと思います。

例えば、周期5と周期15のゴールデンクロス設定例



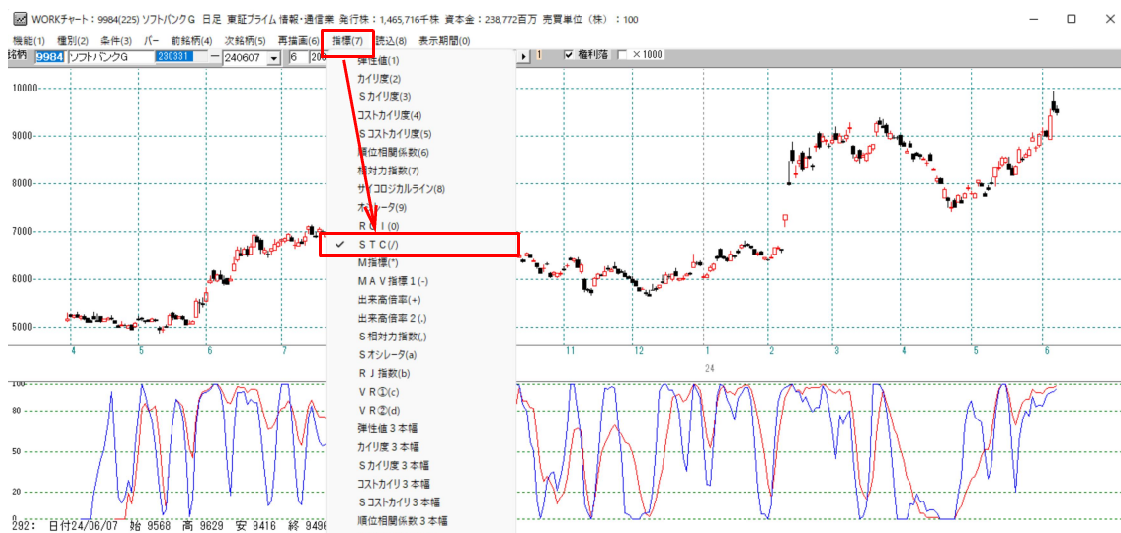
周期の短に「5」、中に「15」

以下の短に「20」・・・周期5は20以下としました。

GC以上の短中に「1」

GC以下の短中に「1」

指標－S T C の表示 ※WORKシートの指標を表示する機能



今回S T C（ストキャスティクス）の解説で周期をわざと「15」にして紹介しました。そしてS % Dの移動平均は一般的にいわれている「3」ではなく「5」としています。

皆が使っている周期ではなく、オリジナルをもたせています。

皆が使っていれば、ある意味調べ尽くされているかもしれません。

それであれば、違う周期を採用したほうが活路があると考えます。

例えば、移動平均線日足の周期ですが、一般的には25日はよく使われている事でしょう。

これは、ざーっと昔は土曜日も相場があったため、一ヶ月25日と計算した名残があるからです。

わたしは、25ではなく20のほうが良いと思っています。

例えば、騰落レシオの周期は一般的には25日ですが、わたしは20日を使っています。

他の人より、はやく行動したい。という事であれば、一般的に周期より1つ短くしてみるのも手です。

5日と25日の移動平均線のゴールデンクロスであれば、4日と24日を採用するといった具合です。

20日の高値安値線を上抜いたという事であれば、19日の周期を採用してみてもいいのではないでしょうか。

ボリンジャーバンドの周期であれば、20日ではなく19日を採用してみる。

などなど、色々と試行錯誤が出来ると思います。

是非、色々周期を変更して、新しい発見があるかどうか試してみてください。